

2. 接続と Riemann 計量

Riemann 計量

M を可微分多様体とする。切断の空間 $\Gamma(T^*M \otimes T^*M)$ の要素で、各点に定まる双線形形式

$$\langle, \rangle : T_x M \times T_x M \longrightarrow \mathbf{R}$$

が対称かつ正定値であるものを Riemann 計量という。Riemann 計量の入った可微分多様体を Riemann 多様体という。局所座標を用いて Riemann 計量は

$$ds^2 = \sum_{i,j} g_{ij} dx^i \otimes dx^j$$

と表示される。ここで、

$$g_{ij} = \left\langle \frac{\partial}{\partial x^i}, \frac{\partial}{\partial x^j} \right\rangle$$

とする。局所座標に関する Euclid 計量を 1 の分割ではり合わせることにより、一般に可微分多様体には Riemann 計量が入ることが示される。

対称な接続

アフィン接続が対称であるとは、Riemann-Christoffel 記号が、つねに

$$\Gamma_{ij}^k = \Gamma_{ji}^k$$

を満たすことである。これは M 上のベクトル場 X, Y に対して

$$T(X, Y) = \nabla_X Y - \nabla_Y X - [X, Y]$$

とおいたとき、つねに $T(X, Y) = 0$ となることと同値である。

Riemann 接続

M のアフィン接続が Riemann 計量と両立するとは、 M 上の任意の滑らかな曲線 $\xi(t)$ とそれに沿ったベクトル場 $X(t), Y(t)$ に対して、共変微分が

$$\frac{d}{dt} \langle X, Y \rangle = \left\langle \frac{DX}{dt}, Y \right\rangle + \left\langle X, \frac{DY}{dt} \right\rangle$$

を満たすことである。これは、曲線 $\xi(t)$ に沿った平行なベクトル場 $X(t), Y(t)$ に対して、 $\langle X(t), Y(t) \rangle$ が t によらない定数であることと同値である。

定理 Riemann 多様体 M 上には, 対称で Riemann 計量と両立するアフィン接続が存在して一意的である.

このような接続を Riemann 接続または Levi-Civita 接続とよぶ. 接続の構成はおおよそ次のようになされる. 接続が Riemann 計量と両立することから

$$\frac{\partial}{\partial x^i} g_{jk} = \left\langle \nabla_{\frac{\partial}{\partial x^i}} \frac{\partial}{\partial x^j}, \frac{\partial}{\partial x^k} \right\rangle + \left\langle \frac{\partial}{\partial x^j}, \nabla_{\frac{\partial}{\partial x^i}} \frac{\partial}{\partial x^k} \right\rangle$$

が成り立つ. ここで

$$\nabla_{\frac{\partial}{\partial x^i}} \frac{\partial}{\partial x^j} = \sum_{\ell} \Gamma_{ij}^{\ell} \frac{\partial}{\partial x^{\ell}}$$

とおいて

$$\frac{\partial g_{jk}}{\partial x^i} = \sum_{\ell} (\Gamma_{ij}^{\ell} g_{\ell k} + \Gamma_{ik}^{\ell} g_{\ell j})$$

と表し, 接続の対称性を用いると

$$\frac{1}{2} \left(\frac{\partial g_{jk}}{\partial x^i} + \frac{\partial g_{ik}}{\partial x^j} - \frac{\partial g_{ij}}{\partial x^k} \right) = \sum_{\ell} \Gamma_{ij}^{\ell} g_{\ell k}$$

となる. したがって,

$$\Gamma_{ij}^{\ell} = \frac{1}{2} \sum_k \left(\frac{\partial g_{jk}}{\partial x^i} + \frac{\partial g_{ik}}{\partial x^j} - \frac{\partial g_{ij}}{\partial x^k} \right) g^{k\ell}$$

が得られる. これが, Riemann-Christoffel 記号の変換規則を満たしていることを示せばよい.